

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成19年11月15日(2007.11.15)

【公開番号】特開2007-37189(P2007-37189A)

【公開日】平成19年2月8日(2007.2.8)

【年通号数】公開・登録公報2007-005

【出願番号】特願2006-271445(P2006-271445)

【国際特許分類】

H 04 R 25/00 (2006.01)

H 04 R 25/02 (2006.01)

【F I】

H 04 R 25/00 Z

H 04 R 25/00 R

H 04 R 25/02 C

【手続補正書】

【提出日】平成19年9月27日(2007.9.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

マイクロホンで採取した音を装用者の聽こえ具合に合わせて変換し、イヤホンから装用者の外耳道へ音を放出する補聴器であって、周囲の音をマイクロホンへ取り込む音入口を弾性高分子膜で塞ぎ、この弾性高分子膜とマイクロホンの振動膜前室とこれらをつなぐ経路によりマイクロホン室を形成し、このマイクロホン室と補聴器ケースにより形成される補聴器ケース室を連通する第1通気手段を設けることを特徴とする補聴器。

【請求項2】

請求項1記載の補聴器において、前記第1通気手段を前記マイクロホン室の任意の場所に設けることを特徴とする補聴器。

【請求項3】

請求項1記載の補聴器において、前記第1通気手段をマイクロホンケースに設けることを特徴とする補聴器。

【請求項4】

マイクロホンで採取した音を装用者の聽こえ具合に合わせて変換し、外耳道内に配置されるイヤホンから装用者の外耳道へ音を放出する補聴器であって、イヤホンからの音を外耳道へ放出する音出口を弾性高分子膜で塞ぎ、この弾性高分子膜とイヤホンの振動膜前室とこれらをつなぐ経路によりイヤホン室を形成し、このイヤホン室と補聴器ケースにより形成される補聴器ケース室を連通する第2通気手段を設けることを特徴とする補聴器。

【請求項5】

請求項4記載の補聴器において、前記第2通気手段を前記イヤホン室の任意の場所に設けることを特徴とする補聴器。

【請求項6】

マイクロホンで採取した音を装用者の聽こえ具合に合わせて変換し、外耳道内に配置されるイヤホンから装用者の外耳道へ音を放出する補聴器であって、イヤホンからの音を外耳道へ放出する音出口を弾性高分子膜で塞ぎ、イヤホンから弾性高分子膜へ音圧を伝える経路に外部に通じる通気孔を設けることを特徴とする補聴器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

請求項5に係る発明は、請求項4記載の補聴器において、前記第2通気手段を前記イヤホン室の任意の場所に設けた。

請求項6に係る発明は、イヤホンから弾性高分子膜へ音圧を伝える経路に外部に通じる通気孔を設けた。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

請求項5に係る発明によれば、イヤホン室と補聴器ケース室との気圧の平衡を取ることができる。

請求項6に係る発明によれば、イヤホン室と外部との気圧の平衡を取ることができます。